

会議名称	県立中井やまゆり園改革アドバイザー会議
開催日時	令和7年9月18日（木）13時30分から16時45分
開催場所	西庁舎7階701会議室
出席者	佐藤議長、渡部副議長、大川委員、小西委員、隅田委員、野崎委員 上野委員、高原委員、中西委員、羽生委員
問合せ先	障害サービス課 支援改革グループ
会議概要	以下のとおり

【議題1 福祉的な検証の進め方】

- 根拠に基づいた検証になるようにすべき。
- 過去の元気だった状態が分からないと、病気や体調不良等の異変に気づけなくなる。根拠として、過去の生活史から利用者が元気だった姿を知ることが重要である。

【議題2 個別事例の検証】

- 薬の服用によって、体重等の身体的な影響をどの程度与えていたのかが分かるような記録を取っていく必要がある。
- 健康面と生活面の記録に加え、生活史を理解して初めて、福祉側が医療側に正しく利用者の状態を伝えていくことができる。
- 口腔ケアなどの支援は、利用者が拒否したら支援を止めるのではなく、別の方法で関わる発想を考えるべき。
- 暴言で片付けられてしまっている出来事でも、その時の言葉や行動に意味はあるはずだが、そうした手がかりとなる記録がない。
- 本人の意思をくみ取るアセスメントができていなければ、個別支援計画が作成されているとは言えない。
- 支援が属人的に進められているような印象があり、寮や園全体で、どのように検討し、決定してきたのか分からない。組織として見直しや振り返りもなかったのであれば、その背景を検証する必要がある。
- 入所理由に、本人の意思が分からないケースが見受けられる。言葉で意思疎通の難しい方の意思をどう確認するかを考えるべき。
- 園職員が、一人の利用者の生活史を丁寧にまとめ、安易な安全第一だったという振り返りをもとに、議論することに非常に価値がある。